

かさまじの子

笠松町道徳教育連絡会議

礎を構築する

笠中生

笠松中学校では伝統的に先輩から後輩へ姿で示しながら学校生活を充実させています。ややもすると最高学年である三年生が規律を乱したり、負の財産を後輩に託したりするものです。しかし、本校の生徒の姿を見る限り、本当によい意味で上級生が後輩たちに影響を与えています。

大切にしている四本柱

笠松中学校には「清掃」、「ポランティア」、「合唱」、「学習」の四本柱というものがありません。「清掃」では二十分間、生徒、教師が黙々と隅々までこだわりを持ちながら取り組んでいます。寒い時期であっても膝をつきながら懸命に床を磨く生徒の姿を見ると心打たれます。

「ポランティア」では朝の部活動が終了してすぐに、自分の教室や廊下、階段で掃除を始め、生徒、気持ちのよいあいさつをして仲間を迎える生徒など、様々な活動をしています。「や

らされている」という強制ではなく、自然に人のために体を動かす習慣が身に付きつつあります。また、委員会や学年が中心となってアルミ缶、古切手などを集めています。

「合唱」は最も本校の生徒がこだわり、誇りに感じているものです。朝の会、帰りの会を使ってパート練習で徹底的に正確な音取りをした後、合わせていきます。リズムに合わせて体を動かす、美しい音色で歌える生徒が多くいます。

「学習」は文字通り学校生活の中心となるものです。授業開始一分前に教科係が着席を呼びかけ、一分間学習と呼ばれる自主学習を行います。係が教科担任と打ち合わせ、内容を考え進めます。一時間のめあてを決め、それに向けて生徒と教師が授業を創りあげています。

卒業期に後輩へバトンタッチ

三学期になると上級生から後輩へ財産を引き継ぎます。縦割り学級での掃除や合唱の交流を行い、先輩から貴重なアドバイスをもらいます。また、三年生の代表が一、二年の学級に出向き、四本柱や部活動のがんばり、進路選択に際して思い悩んだことなどを後輩の前で「語る

会」として発表しています。上級生が姿として後輩に示すことはもちろん、どうして頑張るか思いを語れることが大切だと教師が指導しています。また、「笠中誇りの集い」では自分たちの培ってきた財産を年度末に発表して、次年度への意識づくりをしています。「先輩の合唱の時の真剣な表情が心に残っています」などメッセージを受発信することでやりがいを感じています。

一歩前進を目指して新入生を迎える「対面式」

四月上旬、新入生を迎えて対面式を行っています。中学校生活に不安を持つ一年生を温かい心で迎え、生徒会の一員として彼らに自覚を持ってもらうために、レクリエーションを取り入れながら実施しています。一年生から三年生までの生徒がこれから笠中生として学校を築いていこうとする意識を高めます。このように本校では異学年との交流を通して、学校全体が高まるうとしていきます。

素晴らしい伝統を引き継ぎながらも新しいものを創造していくことが今後の我々の課題でもあります。

(笠松中学校 校長 名和秀彦)

教育委員会だより - 「生きる力」をもつ子どもの育成 -

4月より、土曜日が休みになり、子どもたちは毎週連休の生活をしています。地域の皆さんからは、学校週5日制になる前の子どもたちの生活と4月からの生活は違っているようにみえますか。

学校での教育内容は、学習指導要領で決められています。いつの時代でも応用のきく「生きる力」や「確かな学力」の育成を最大のねらいとして編成されています。

「確かな学力」について少しふれておきます。

知識や技能は大切ですが、その量だけでなく、その意味が大切なのです。

- ・知識や技能を身に付け、それを応用する力
- ・学ぶことへのやる気や意欲
- ・自分で考え、判断する力
- ・自分を表現する力
- ・自分で問題を解決し、自分で道を切り開いていく力

...を身に付けていくことが大切です。世の中がどんどん変わっていく今の時代では、全世界的にこのような力が

望まれています。

そのため学校では基礎的・基本的学習をきちんと学びます。子どもたちはすべてすてきな個性を持っています。一人ひとりが自ら学び、学びたいことを学校だけではなく家庭や地域などでも学べるように、しかも、体験を重視した学び方で進めていけるように、子どもの生活時間をゆとりあるものにしたいものです。

学校では「総合的な学習の時間」が始まります。各学校が創意工夫を生かし、これまでの教科の枠をこえた学習ができる時間です。ここに学校らしさが出てきます。地域のかたに講師をお願いすることも多くなります。

どんな特色のある学校になるか、楽しみのひとつにもなります。(文部科学省資料 参照)

教育電話相談

～悩んだら気軽に電話してください～

羽島郡四町教育委員会 245-1133